

第1回田川広域定住自立圏共生ビジョン懇談会

日時	平成29年5月11日(木) 13:30~15:30
場所	田川市役所4階 第2委員会室
出席者	出席者: 松浦賢長氏(公立大学法人福岡県立大学 理事)、新博司氏(福岡県企画・地域振興部広域地域振興課地域企画監)、百武宏幸氏(一般社団法人田川医師会理事)、佐々木陽子氏(田川地区介護サービス事業所協議会会長)、奥昇治氏(一般社団法人田川広域観光協会事務局長)、油布進氏(九州旅客鉄道株式会社筑豊篠栗鉄道事業部企画課長)、今村寿人氏(公益社団法人田川青年会議所理事長)
協議内容	<p>1 開会</p> <p>2 委嘱状交付</p> <p>3 田川市副市長あいさつ</p> <p>4 委員紹介</p> <p>5 田川広域定住自立圏共生ビジョン懇談会設置要綱について</p> <p>6 会長及び副会長選任 会長に松浦賢長氏(公立大学法人福岡県立大学理事)、副会長に新博司氏(福岡県企画・地域振興部広域地域振興課地域企画監)とすることを満場一致により決定。</p> <p>7 議事</p> <p>(1) 定住自立圏構想について資料1</p> <ul style="list-style-type: none">・圏域全体で必要な生活機能を確保し、地方圏への人口定住を促進するものである。(事務局説明内容) <p>(2) 田川広域定住自立圏形成に向けた取組について資料2</p> <ul style="list-style-type: none">・田川地域では平成28年8月に定住自立圏を形成する方針を確認し、平成29年1月に定住自立圏形成協定を締結したところである。なお、協定では、田川地域8市町村が連携して20の事業に取り組むこととしている。(事務局説明内容)・平成29年10月に、20の事業内容を盛り込んだ定住自立圏共生ビジョンを公表する予定としている。(事務局説明内容)・20の事業以外に追加出来ないのか。(委員意見) ⇒懇談会でいただいた意見を基に、市町村長等が集まる会議で承認を得たのち、各市町村議会で議決が得られれば追加は可能である。(事務局回答)・20の事業を決定するには、審議の時間が短いのでは。(委員意見) ⇒この懇談会の設置期間は、共生ビジョンの計画期間の平成33年度までであるが、その間に必要に応じて変更が可能である。(事務局回答) <p>(3) 田川広域定住自立圏共生ビジョン(案)について資料3</p> <ul style="list-style-type: none">・奨学金事業の関係であるが、福岡県立大学看護学部に通う学生が卒業後、田川地域以外に多く就職している。田川医師会では奨学金の活用も考えながら、看護師等の確保を検討している。(委員意見) ⇒今回導入する給付型奨学金事業は、田川地域に低所得者が多い実態を考慮し導入したものであるが、大学卒業後、地域に貢献したいと思う人材の育成も視野に入れている。(事務局回答)

- ・優秀な人材（子ども）が外部に流出している中、現在の取組では少し弱いと感じる。教育・人材育成の環境を整える事業について検討してもらいたい。（委員意見）
⇒重要な課題と認識している。現在、中高一貫校の設置に向け検討を進めているが、その他にも連携して取り組める内容があった場合は、追加することも視野に入れ検討したい。（事務局回答）
- ・定住というと、企業誘致を行うことにより、雇用の場を生み出すことや、移住してきた方への補助制度を充実するということが考えられる。（委員意見）
⇒企業誘致については、担当部署に相談し、8市町村で連携出来ることがないか、検討したい。移住してきた方への補助制度については、現在、それぞれの市町村が独自色を出しながら実施しているが、これについても独自に実施した方がいいのか、それとも8市町村が連携した方がいいのかを含め、8市町村の担当課で検討したい。（事務局回答）
- ・8市町村の連携において、観光については重要と認識しており、田川広域観光協会として情報の積極的な発信や、ウェブサイトの改善など、更に取り組を強めたいと考えている。（委員意見）
- ・空き家が年々多くなっているが、定住対策として、空き家の活用を検討してはどうか。（委員意見）
⇒現在、それぞれの市町村で空き家バンク制度などを運用しているが、8市町村の担当課で協議し、連携して取り組んでいけるかどうか検討したい。（事務局回答）

（４）懇談会の今後の開催について資料４

- ・次回の会議では、本日いただいた意見を整理して回答させていただきたい。もう1点は20事業の成果指標（KPI）をお示しするので、議論いただきたい。（事務局説明内容）

8 その他

特になし

9 閉会

(以上)